

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992300079		
法人名	社会福祉法人】敬和会		
事業所名	グループホーム 元氣(はつらつ棟)		
所在地	栃木県下都賀郡壬生町壬生甲2224-1		
自己評価作成日	平成24年 2月27日	評価結果市町村受理日	平成24年 5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年 3月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々それぞれの人格を尊重しながら、日々いきいきと生活していただけるように、また一人ひとりが安らいだ気持ちを持ち、入居者同士が仲良く過ごしていけるよう支援している。また、地域の方々からの温かい協力や支援を受け、様々なボランティア活動(ちぎり絵・フラダンス・日本舞踊など)を行っている。施設内でも、それぞれの季節に応じた様々な行事(新年会・初詣・手作りおやつなど)を行い、入居者の方々に楽しんでいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当法人は県内他市に特別養護老人ホーム・グループホームを運営しており、人々が地域で落ち着いて暮らせるようにと、医師である理事長の強い想いにより昨年4月開設された。職員が意見を出し合い完成させた「人と人」「心と心」のつながりのケアを大切に、笑顔の絶えない明るい環境の中で、その人がその人らしく生活ができるようなホーム作りをめざす。という理念のもと、全職員は明るく笑顔ではつらつとしており、利用者のより所となっている。建物内部は木を活かした、明るい造りであり、周囲には四季折々の木々が植えられ、利用者はその変化を感じながら、心地よく、安心してゆったりとした時間を過ごしている。運営推進会議を通して防災訓練に地域の方の参加もある。行事への参加や交流を通して地域の人々との馴染みの関係づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務や各種会議において理念の共有、実践に取り組んでいる。地域の方々や各ボランティアの協力を頂きながら、より良い実践へとつなげている。	職員全員で作り上げた理念で、[人と人][心と心]のつながりを大切に日々支援しており、困った時はもう一度振り返り、会議等で話し合い、その理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、運営推進会議を通じて、利用者との交流を計っている。また、共同して防災活動を行っている。	自治会に加入しており、地域の公民館の行事では、参加保育園等と交流を行っている。ホームの畑の除草等の手伝いを受けたり、散歩時や買物等で挨拶を交わしている。開設時には内覧会を行った。今年は自治会総会に職員が参加し、PRや協力をお願いする予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域のボランティアとの交流により、認知症の人の理解に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、管理運営、入居者の処遇状況、主な行事の実施状況などを報告し、意見をもらい、サービスの向上に活かしている。	利用者・家族代表、役場健康福祉課職員、包括支援センター職員、自治会長、民生委員等が参加し定期的に開催している。議題により消防署職員などの参加もある。利用者の生活状況や行事の報告、話し合いをして、そこで出た意見を職員間で検討し、サービス向上に活かす実施できるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当課長が運営推進会議に参加しており、ホームの運営状況や実情、入居者の日常生活等も把握してもらっているため、細部に渡り相談しやすく、担当者とは連絡を密に取り合い、協力関係を築いている。	開設時には役場にパンフレットを置いたり、広報に載せPRをして利用者の拡大を図った。介護保険認定の要件で役場に出向いた際、利用者に関する情報提供やアドバイスを貰う等気軽に相談している。又、法人内の地域包括支援センターでの研修会開催にも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止となる具体的な行為を理解している。拘束、施錠のないケアを実践している。	職員は身体拘束をしないケアの実践を目指し、禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、落ち着かない利用者には、職員が共に歩いたりして支援している。言葉遣いも気をつけている。玄関は、開閉ボタンが上部にあり、門扉は施錠している。	玄関の開閉ボタンが開けにくい状況や、門扉の施錠に関して、利用者にも与える影響を考慮し、今後は敷地内を含め外部の方の訪問が自由に出来るよう、鍵をかけずに過ごせる工夫を職員間で協議を重ねていくことに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待はない。日頃から声かけには注意を払い、穏やかに笑顔で接している。会議等において定期的に話し合う場を設け、防止に努めている。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な時には活用できるようにしている。また実際に活用している入居者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時、十分な話し合い、説明をし、理解、納得のもと同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情相談受付窓口と市高齢福祉課の連絡先を明記している。家族の訪問時には「何かありませんか」等の声がけをし、要望などが言えるような雰囲気作りを心掛けている。また面会簿に意見欄を設けて、意見・要望を聞いたりしている。	家族等の面会時に声をかけ、要望や意見を聞くようにしている。運営推進会議は、毎回違った利用者と家族の参加で、意見や要望を出してもらっている。また利用者に対しては声かけを行い、要望等が言いやすい雰囲気作りを心がけている。面会簿には意見欄を設けているが記載の例はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種委員会、スタッフ会議、職員会議等により職員の意見や提案を反映させている。また、意見や提案を言いやすい環境作りをしている。	各委員会やスタッフ会議、職員会議等で(利用者の処遇等の)意見や提案を職員に出してもらい運営に反映させている。また、申し送り時等に出た問題点の提示などの意見は、連絡ノートに書き込んでもらい会議にて検討し運営改善、支援向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者はスタッフ会議に出席し、職員と話し合う機会を持ち、勤務状況を把握している。全職員に目を配り、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や社協からの研修案内により、その都度参加を検討し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。研修報告書の内容は、回覧したり職員会議に発表の機会を設けるなどして、内容の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。各研修に参加した職員は、研修先で同業者との交流を持つ機会がある。その他、必要があれば地域の同業者との交流なども検討し実施している。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族と共に来所して頂き面接を行い、困っていることなどをご本人自身から聴く機会を設けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご本人と共に来所して頂き面接を行い、困っていることなどを聴く機会を設けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族だけでなく担当の介護支援員からも情報提供をもらいながら、他のサービスについての説明を行い、支援の見極めを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな時でも入居者が主役となれるように徹し、今までの経験が生かせるような働きかけを行っている。また人生の先輩から教えて頂く事は多く、決して一方的な関係ではあり得ないと考えている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族より本人の嗜好や関心等を積極的に伺い、計画に反映させている。定期的に日常の様子や健康状態を伝え、情報の共有を図っている。また家族の協力が必要な時は、本人を共に支えあえるよう、本音で話し合えるような関係を作っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所を訪れたり、友人や親戚等が気軽に訪ねて頂けるようなホームの雰囲気作りに努めている。	家族を始め友人・知人等の来訪があり、お茶を出したり、応接室や居室でくつろげるよう支援している。行きつけの理・美容室等には家族の協力を得ながら対応し、馴染みの人や場所との関係が継続出来るように働きかけをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人同士の交流を大切に、居室間の訪問等の支援をしたり、リビングや行事等での席順等も工夫している。			

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅介護支援事業者等関係機関への情報提供を行ったり、本人・家族への相談助言が必要な場合は即実行できる体制がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で随時本人の希望を確認したり、困難な場合は家族からの情報や生活歴などを参考にし本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声かけや観察を行い、行動や表情を見て、散歩やレクリエーション等の希望の把握に努めている。困難な場合には、家族の来所時等に情報を得ながら本人本位の対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接や入所してからも随時、担当介護支援専門員や本人・家族に確認し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や状態を職員が確認し、日々記録したり、申し送りに努めている。また、会議などで情報を交換し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を確認し、ケアマネージャー、担当職員が話し合いを行い、介護計画を作成している。	週1回の嘱託医による診察時に得たアドバイスを介護計画の参考にしてしている。利用者・家族の希望や要望を聞き、担当の職員とケアマネージャーが随時話し合いを行い、3か月毎にモニタリングを行っている。しかし、定期的な会議ではなく、介護計画に反映されていない等の課題がある。	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくためには、利用者・家族、関係者と話し合いを行い、意見やアイデアを参考にし、記録に残すような会議の場を設けての介護計画が作成されるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別記録に記入し、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に応じて、できる範囲で事業所の機能を活かした支援を行っている。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、ボランティアや他の機関と協力し、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医の受診への継続を希望するかを伺い、定期的あるいは必要に応じた受診への連絡を行っている。特に希望がないときは、嘱託医を主治医とし、定期的に診療をおこなっている。	かかりつけ医での受診の際、連絡を行い、家族を通して情報を提供している。かかりつけ医の希望のない利用者に関しては、理事長である嘱託医が週1回定期的に診察を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連施設の特養やデイの看護職員に相談を行っている。又緊急時には応援を頼める体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師である理事長が週1回火曜日に回診に来る。かかりつけ医がある入居者については、家族と連携をしながら、服薬や症状変化の情報提供等適切な医療が受けられるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族へ重度化した場合の対応等を説明、希望を聞き、実際に重度化した場合は早い段階から本人や家族、嘱託医と話し合い、方針を共有している。	重度化した場合や終末期の対応については、契約時に具体的に説明している。重度化した場合を考慮して、同法人の施設や他の施設の情報も提供している。「ずっと居たい」と希望する方もおり、今後の変化に備えて職員間で話し合いや勉強会を行っているが、看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、事故発生時の対応を具体的に記載したマニュアルを全職員に配布している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等は定期的に行っている。地域との協力体制については、消防署・自治体・自治会等に相談し、対策の検討を計っている。	3カ月に1度の割合で避難訓練を行い、昼間、夜間を想定した訓練も行っている。自治会長と民生委員の参加はあったが、地域の方については自治会に相談している段階で、自治会総会で協力体制を話し合う予定である。推進会議に、消防署職員7名の参加があり、意見やアドバイスをもらい参考にした。水や食品の備蓄をしている。	

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部外者の訪問時個人情報が入らないようにしている。ボランティアや見学者に対しても守秘義務に関する説明や書面記入を行っている。	言葉かけをゆっくり行うよう心がけ、目上の方への尊敬の念をもち支援している。又、排泄や入浴の介助に関しても羞恥心を考えた言葉かけや対応を行うようにしている。個人の記録物などは鍵のかかる所に保管し、個人情報の保護を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の態度や会話から本人のニーズを探り、思いや希望を受け止められるようなコミュニケーションを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の考えに立ち、職員は各行事やその他のレクリエーション等の参加の声をかけを行うが、本人の希望を尊重し強制しない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品など身の回り品を把握し必要に応じて補充している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の好みなどを職員全員が把握している。できる限り手伝いの声かけをして一緒に行っている。お好みメニューや行事食など随時行っている。	食材を購入している業者に、献立も立てて貰っている。利用者は盛り付け、味見、テーブル拭き、後片付け等職員とともにしている。職員は同じテーブルで話をしながら、目配り、気配りを行い支援している。月1度のおやつ作りやお好みメニュー、ボランティアによるお寿司づくりの提供などが、利用者の楽しみにもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理を工夫したり本人の状態にあわせた食事を提供している。食事摂取表を作成し一日の摂取量を確認できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人は毎食後歯磨き、うがい、義歯の手入れを行い、職員は利用者の能力に応じて支援している。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄データ及び日常の観察を通して、排泄パターンを把握しており、定期的にトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表や、仕草などの観察を通し個人の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導等を行っている。入居当時はオムツであった利用者のオムツ外しの成功の実績がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を実施し、排泄チェックを行っている。また散歩や外出等適度な運動を促し、牛乳を毎日摂取して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎朝入浴の希望を確認して、限られた時間帯の中でも入居者の希望に合わせた時間に入れるよう配慮し、ゆったりと入浴できるように支援している。	毎朝入浴の希望を確認し、希望があればそのつど入浴している。それ以外は週3回入浴を支援し、個々の希望の時間帯に入浴できるように配慮している。入浴拒否傾向のある利用者に対しては、強制せずに自分から入浴出来るように声掛け等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室の居室は、いつも休めるようベッドメイクしており、清潔を心がけている。ソファーも用意しており、状況に応じて見守り、安全、安眠に休息して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつも目が通せるよう、利用者様のケース記録に服薬の処方箋をファイルしたり、確実に服薬できるように内服完了まで見守りをおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味の理解に努め、外出や気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時に買い物や外出に出かけている。家族との外出も支援している。	天気の良い日にはホームのまわりを散歩したり、買物、ドライブ、外食等、本人の希望に合わせた支援をしている。他市にドライブした際は、法人のグループホームに立ち寄り、交流の機会もある。また家族等の協力を得ながら積極的な外出を支援している。	



グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での管理が難しい方には、必要に応じて好きな時に使用できることを理解して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった時は、随時電話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、本人の手作りの作品を飾ったりし、生活感や季節感を取り入れている。	共用の空間は木を活かしたゆったりとした作りで、窓際に応接セットが置かれている。壁面には行事等の写真、テーブルには季節の花を飾り季節感を取り入れている。ホーム内のリビングは床暖房で、毎朝掃除を行い、午前・午後に換気を行っている。乾燥する時期は加湿器を設置し、各居室には夜間濡れタオルをかけている。利用者はリビングで過ごし、くつろいでいる方が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、テーブルを置き、自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた家具や生活用品を使用したり、写真やご自身の作品を飾ったりして頂き、個々人が居心地良く過ごせるよう支援している。	カーテン、エアコン、押入れ、ベッド、洗面所は備え付けであるが、家族の写真や、馴染みの深い家具、位牌等が持ち込まれている。壁には本人の作品を飾り、それぞれ個性のある居室づくりをし、安心して居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所に手すりや椅子を配置し、場合によっては家具などの移動を行い、安全かつ自立した生活が送れるよう努めている。		